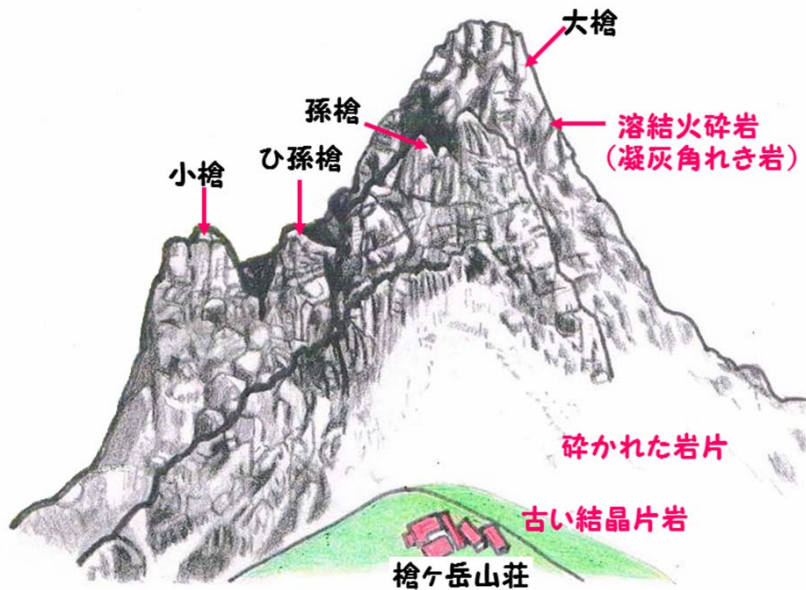


や り が た け  
百名山自然ガイド 槍ヶ岳

山頂の標高:3180m

#百名山自然ガイド #槍ヶ岳

## 槍ヶ岳山頂(南西側上空から)



## 170～180万年ほど前の大噴火：槍ヶ岳

○槍ヶ岳山頂は、大昔の火山の大噴火で噴出したマグマなどが固まった岩でできていますが、同じ頃に噴き出したと考えられる岩が、槍ヶ岳～穂高岳～上高地にかけて厚く広がっています。

○この大噴火は、今から170～180万年くらい前のできごとだと推定されています。大量のマグマを噴き上げたために、噴出物の多くはその重みで上空まで上がることができず、地表にくずれ落ちて大火砕流(かさいりゅう)となり、周りへ広がったらしいのです。

○このとき、大量のマグマを噴き出したために地面が大きくくぼみ、槍ヶ岳～上高地にかけて細長い形のカルデラが生まれました。槍ヶ岳では、噴火前の山を作っていた岩のかたまりをたくさん含み、また、北方の北鎌尾根では、ほとんどそうしたかたまりばかりが集まっています。このような岩を「角れき岩」と言いますが、マグマ物質も含む山頂の岩は、「凝灰角れき岩」と呼ばれています。

## 山頂へ:最後の100m



## 三角の山頂

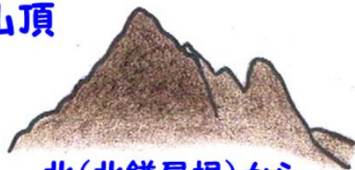
○槍ヶ岳といえば、三角にとがった山頂の形が印象的です。長い年月の間に周りの岩がすっかり削られて、特別に硬い部分が、このような形に残されました。

○三角の山頂は、氷河が削ったものだと言われることが少なくありません。しかし、氷河が削ったという確かな証拠が山頂部の岩の表面に残されているわけではないので、決めつけてしまわない方がよいかもしれません。

○山頂へは、南西側に登山ルートがつくられています。難しいところには“はしご”や“くさり”が取り付けられていますので、最後の100mを慎重に登り降りしましょう。上り下りのコースが分けられていますので、決められたところを進んでください。

○なお、登り始めのところには、ついたてのような岩の列が延びています。どうしてそのようになっているのか、興味がもたれます。

## 各方向から見た山頂



北(北鎌尾根)から



西(笠ヶ岳方面)から



東(西岳方面)から



おおばみだけ  
南(大喰岳方面)から

## 山頂は傾いている？

○槍ヶ岳の三角の山頂部について、傾いているという声があります。確かに、例えば南方から見ると、左側（西側）の稜線は少しなだらかで、右側（東側）のそれは急に見えます。

○岩の中のひび割れ（柱状節理ちゅうじょうせつり）の向きから、山頂部が傾いたことを推定する試みがあります。しかし三角の形については、東西南北が同じように削られたかどうかは確かではなく、山頂が傾いたことの証拠の一つにするのはまだ早そうです。

○山頂が傾いて見えるのには、東側稜線の最上部がえぐれていることと、西側の稜線が、孫槍～小槍へ続く岩やその手前のついたてのような岩の列で隠されていることも影響しているようです。

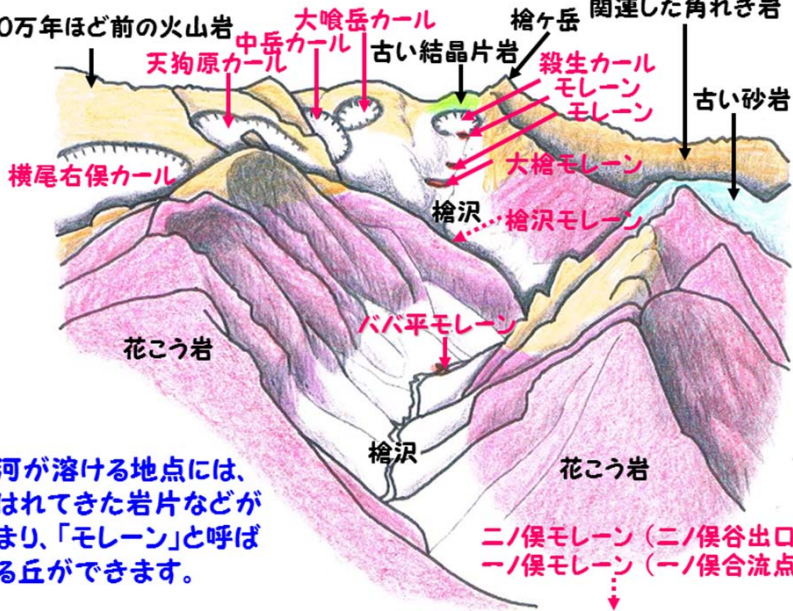
○山頂部の岩には、岩の柱を並べたように見える柱状節理の割れ目が見られます。柱の向きがどのくらいそろっているか、確かめてみると面白いかもしれません。



## 南東から見た槍沢と槍ヶ岳

### 170～180万年ほど前の火山岩

170～180万年ほど前の噴火に  
 関連した角れき岩



氷河が溶ける地点には、  
運はれてきた岩片などが  
たまり、「モレーン」と呼ば  
れる丘ができます。

二ノ俣モレーン (二ノ俣谷出口)  
一ノ俣モレーン (一ノ俣合流点)



## 氷河の谷：槍沢

○山頂へ向かうルートとして槍沢を選んだときには、全コース、氷河の地形を楽しみながらの登山になります。

○地球では、寒い気候、暖かい気候が繰り返されてきました。古い時代の記録はその後の変化で消されてしまうためになかなか残っていませんが、過去10万年くらいの間では、2万年ほど前と6～7万年くらい前に、今よりずっと寒い時期があったようです。

○槍沢では、常念岳からの沢と合流する一ノ俣まで氷河が下った時期があり、「U字谷(ゆうじこく)」と呼ばれる地形を作りました。氷に削られて谷底は平らに、両岸は切り立った崖になっています。

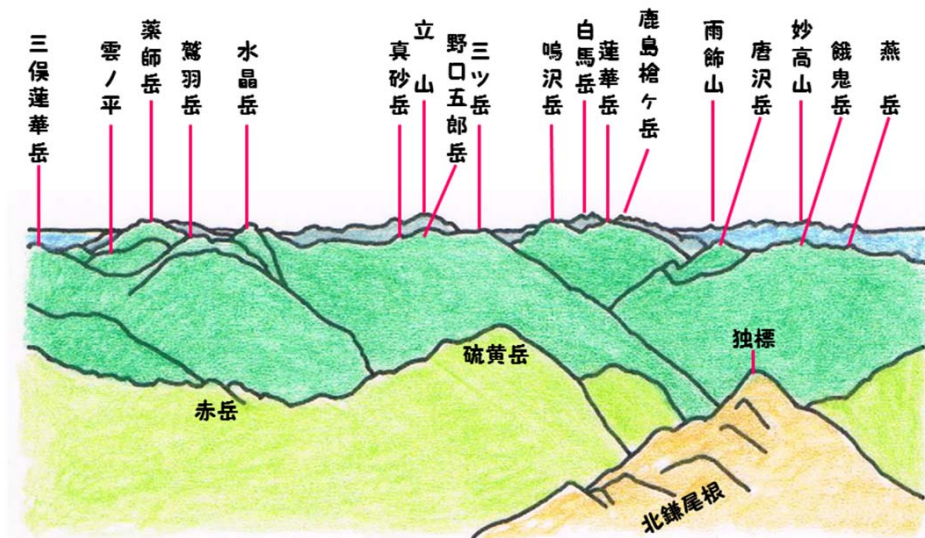
○U字谷では、Uの字の縁まで、氷河の氷がいっぱいになったわけではないと考えられます。崖の下を氷河が削れば、それに合わせて、崖の上部も崩れてしまいます。三角にとがった山頂部でも、同じようなことが起きていたのかもしれませんが。

## 山頂からの展望

北西

北

北東

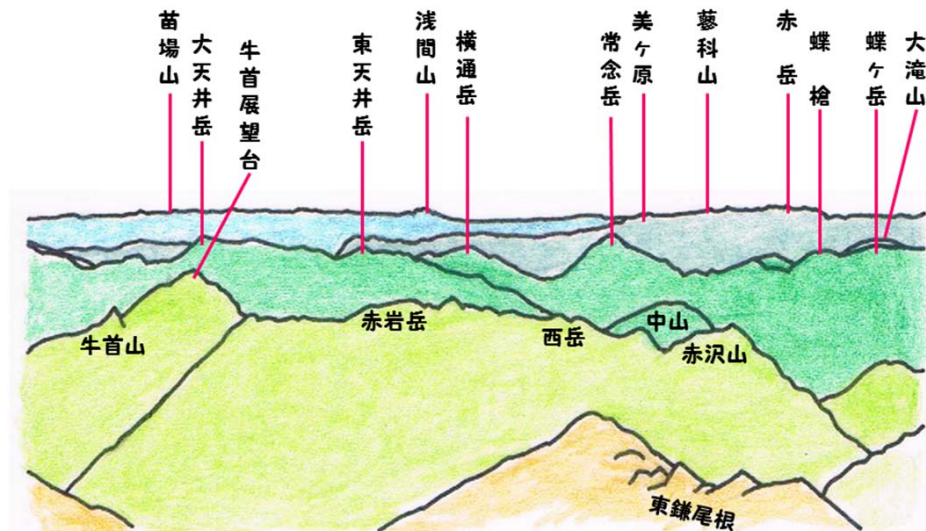


## 山頂からの展望

北東

東

南東

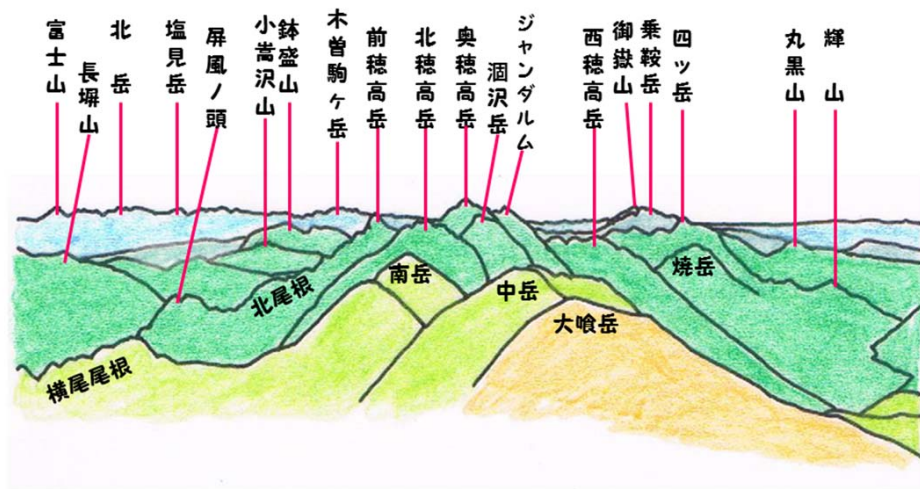


## 山頂からの展望

南東

南

南西

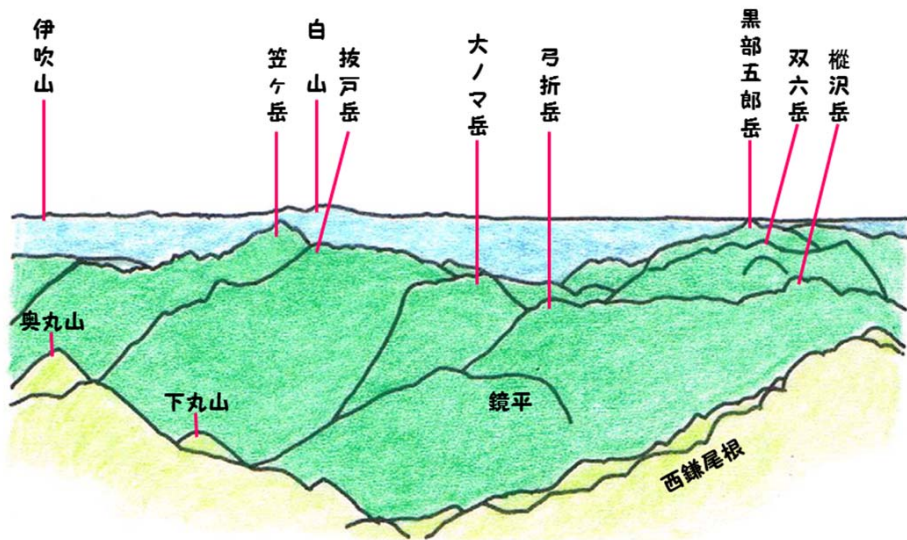


## 山頂からの展望

南西

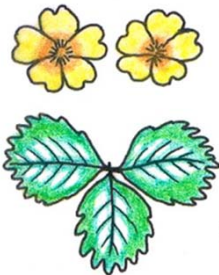
西

北西

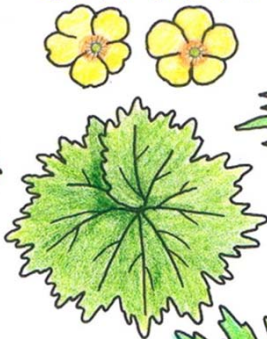


## 山頂部に咲く花(1)

ミヤマキンバイ



ミヤマダイコンソウ



ミヤマキンポウゲ



シノキンバイ



4cm

ミヤマキンバイとミヤマダイコンソウはバラの仲間です。秋には、赤紫色の草もみじになってきれいです。

ミヤマキンポウゲとシノキンバイはキンポウゲの仲間です。大きな切れ込みのある葉を持っています。

花びらのように見えるのはがくです。本当の花びらは、おしべの根元の小さな三角です。



「百名山自然ガイド」は、山歩きの楽しみをいっそう大きくすることのお役に立たないかと考えながら、山の美しい自然をいつまでも大切にしていきたいと願う仲間で作成しています。四季の丹沢ほか、各地の案内を下記に順次掲示していきたいと思いますので、機会がありましたら、どうぞご利用ください。

<https://yama3823.com/100meizan/index.html>



左のアドレスのQRコードです

なお、いろいろ思い違いもありそうです。間違いにお気づきのときやご感想など、お寄せいただけると嬉しいです。 yama\_3823@yama3823.com  
(メール送付のときは、添付ファイルはつけないようにお願いできるでしょうか)

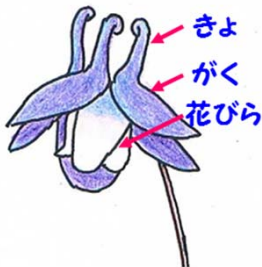
- 山では、ちょっとした不注意や判断ミスが事故につながります。  
安全を心がけて、余裕のある計画を立てましょう。
- 登山者には、登山届を提出することが呼びかけられています。  
予定のコースや日程を、入山前に届け出ましょう。
- 動植物や石をとったり、岩を欠いたりするには許可をとることが必要な区域が  
広くあります。そうでない場合も、ありのままの自然を大切にしましょう。
  - ごみの放置は、生態系に大きな影響を与えます。  
ごみは、各自で持ち帰りましょう。



## 山頂部に咲く花(2)

4cm

ミヤマオダマキ



“きよ”と呼ばれる部分の  
先が、くると巻いていま  
す。もっと低い所に咲くヤ  
マオダマキの“きよ”は、少  
し曲がっているだけです。

タカネシオガマ



よく似た花



ミヤマシオガマ



タカネシオガマ



ヨツバシオガマ

タカネシオガマとミヤマシオガマの花はよく似ていま  
すが、タカネシオガマは少し下向きに、ミヤマシオガ  
マは少し上向きに咲きます。ヨツバシオガマは、花び  
らの一部が鳥の頭とくちばしの形になっています。

## 作成記録：主な変更点

- 2016年10月作成
- 2024年7月ホームページ掲載. 1頁大槍の岩は凝灰角れき岩と説明されることが多いが、ここでは「溶結火砕岩」という表現に. 8頁氷河の時代について、5～6万年としたところを6～7万年に変更.